

## 第1回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和6年11月8日(金) 10:30~12:00
場所	茂原市役所101会議室
出席委員	関谷昇、鈴木明子、鬼島義昭、杉浦文子、松本光男、丸岡一人、落合精一、 中田文昭、瀬戸伸太郎、千村文彦、保川貴俊 (計11名、敬称略)
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 会長・副会長選任 5 諮問 6 議題 (1) 茂原市総合計画審議会について (2) 茂原市総合計画の策定方針について (3) 茂原市総合計画の策定体制および策定スケジュールについて (4) 茂原市の概況について (5) その他 7 閉会

### 【会議要旨】

#### 4 会長・副会長選任

会長に関谷昇委員、副会長に鈴木明子委員が選任された。

#### 5 諮問

市原市長から関谷会長へ諮問がされた。

#### 6 議題

##### (1) 茂原市総合計画審議会について

〈事務局から資料に沿って説明。委員から質問、意見なし〉

##### (2) 茂原市総合計画の策定方針について

〈事務局から資料に沿って説明。〉

**委員**

後期基本計画等の策定にあたっては、コンサルタントに委託するという話を聞いたが、市職員の知見を活かして自前で策定することを前提とし、コンサルタントには委託しない方が良く考えるがどうか。

**事務局**

コンサルタントに委託を行うが、庁内でも策定に向けた体制づくりを行い、しっかりと議論する。コンサルタントに全部を委託するという考えではなく、全国の市町村の事例や専門知識の提供等の側面で支援していただくことで、市としての主体性を失うことの無いように策定を進めて参りたい。

**会長**

一昔前はコンサルタントに計画策定を丸投げし、全国各地で似たような計画が作られるということが多かったが、そのような時代は終わったと考えている。庁内体制づくりも行われるとのことなので、市幹部を中心に意見を取りまとめていただきたい。

**(3) 茂原市総合計画の策定体制および策定スケジュールについて**

〈事務局から資料に沿って説明。〉

**委員**

市の各施策分野について質問をしたい場合、この審議会に各部局の職員の出席をお願いし、説明を求めることができるか。

**事務局**

求めに応じ、各部局の職員からの説明を行うことは可能である。

**委員**

5年前に本審議会が開催された際、委員の数は20名であった。しかし、今回は18名であり、2名減っている。茂原市都市計画審議会からの推薦委員と、公募市民が1名ずつ減っているようだが、理由は何か。

**事務局**

茂原市都市計画審議会については、委員の改選により現在会長が不在であり、推薦いただけなかったため、公募市民については、最大3名のところ2名しか応募がなかったためである。

**委員**

茂原市総合計画には都市計画に関わる部分も多くあり、本審議会で審議するにあたっては、都市計画に関する知見を持った委員も必要であるとする。茂原市都市計画審議会からの委員推薦について、次回から検討していただきたい。

**事務局**

検討する。

**委員**

今回、公募市民に女性はいなかったのか。

**事務局**

応募いただいた市民は、今出席いただいている2名のみであり、女性はいなかった。

**(4) 茂原市の概況について**

〈事務局から資料に沿って説明。〉

**委員**

前期基本計画と後期基本計画の間には、新型コロナウイルス感染症の流行があり、社会に大きな影響を与えた。アフターコロナの今、社会にはどのような変化があったのか、この資料からは読み取れなかった。コンサルタントに委託することなので、その点はよく分析させた方が良く考える。

**事務局**

コンサルタントには令和7年度から委託を行う予定のため、新型コロナウイルス感染症の影響については分析させる方向で検討する。

**委員**

後期基本計画を策定するにあたり、人口は前提条件となる。茂原市総合計画では、人口について「減少にブレーキをかける」という方向で検討されていた。そのような状況下でも直近では社会増となっているようだが、その要因について分析は行っているか。

**事務局**

令和4年10月から令和5年3月まで、茂原市への転入者を対象としたアンケート調査を行った。その結果、「茂原市に住もうと思った理由」の上位は「通勤・通学に便利」、「買い物が便利」、「賃貸物件が多い」であり、本市の生活利便性を挙げる方が多かった。

また、周辺町村にはアパートなどの賃貸物件が少なく、本市の周辺地域に住むことを検討する際には選択肢に挙がりやすいという事情もあると考えている。

**委員**

決算状況を見ると、コロナ禍で歳入歳出が増加しているが、その主な理由は何か。

**事務局**

歳出についてはコロナ対策や物価高騰対策に係る事業での増、歳入についてはそれと対応した国からの交付金の増が主な理由である。令和2年度が突出しているのは1人あたり10万円を給付する特別定額給付金事業が行われたためである。

**委員**

各財政指数について、近年の推移がわかるか。

**事務局**

大まかに申し上げると財政力指数については減少（悪化）傾向、実質公債比率と将来負担比率については減少（改善）傾向、経常収支比率はほぼ横ばいの状況である。次回、過去の推移を含めた資料を配付する。

**委員**

財政が厳しい中、民間活力の活用についてはどう考えるか。

**事務局**

学校給食センターについてはPFI手法を導入して運営している。その他にも駅前の商業施設と公共施設の併設などの検討を行っている。

**委員**

PFIはすでに古い手法であり、その他にも様々な手法がある。他自治体と比べて茂原市は民間活力を活用しようという発想が薄い気がしている。周辺自治体に先駆けての導入を積極的に検討していただきたい。

**会長**

民間活力と言っても資金や人材など、それぞれに持っている力は違い、それをどう活用していくかが問われてくる。また、国の交付金についても配分されるのを待っているのではなく、取りに行くという姿勢が重要になってきている。

#### 委員

前期基本計画においてはテーマごとに「施策の対象となる領域」が定められているが、庁内の担当課において、この部分についての認識が薄いように感じる。従来のタテ割りではなく、ヨコのつながりを持つためにも、総合計画について、もっと庁内で理解してもらう必要があると考える。

#### 事務局

庁内において総合計画の理解を深めることは重要である。総合計画策定会議やワーキンググループ等を開催する中で、各担当に意識してもらえるよう努める。

#### 会長

茂原市総合計画の中では「まちづくりの重点課題」を定めており、それを「時間的な視点」と「空間的な視点」に分け「2つの視点をつなぐ手法」を用いて分野横断的に整理するという手法を取っている。(茂原市総合計画本編 23 ページ)

各テーマを「時間的な視点」と「空間的な視点」で分析すると、どこに関連しているのかが、テーマの最後の表に示されている。(茂原市総合計画本編 41 ページ)

この構造については、職員の皆さんにもぜひ理解してもらえるようお願いしたい。

#### 副会長

今回は公募市民が2名と少なかったようだが、市民全体がこの計画に興味を持ってもらえるような雰囲気作りは重要である。市民の参加や理解を促進するためには行政からの積極的な情報発信が必要である一方、市民がまちづくりに主体的に取り組むという意識も重要であるため、上手く仕掛けていく必要があると感じている。

#### 委員

これからの茂原市を背負っていくのは若い世代であり、若者の意見を取り入れることも必要である。市内の高校でも社会参加に積極的なところがあるため、あるテーマについて高校で議論してもらうなどの方法も取れるのではないかと。日本の学生は行政への参加が少ないという研究もあるようだが、そういう方向での参画を求めているかどうか。

ある自治体では、事業の説明を動画にして YouTube にアップロードしている。若者に対する PR や理解促進の手法としては有意義であると考えているので、検討していただきたい。

#### (5) その他

〈特になし〉

以上